

「福祉サービス第三者評価」等を踏まえたサービス改善計画・実施状況

施設名	障害者支援施設白鷹陽光学園	受審(実施)年度 (※)	平成29年度	施設番号	41-0057
-----	---------------	-----------------	--------	------	---------

※第三者評価または利用者調査実施の年度

項目	評価結果に基づく現状分析 (平成 29年度)	改善計画 (平成 29 年度末時点)	実施状況(予定を含む) (平成30年4月30日時点)
「新人と異動職員の支援力の向上を図る必要がある」について	28年度はプリセプターを個人ごとにつけていたが、プリセプターによって指導にばらつきがみられたため、29年度からは、係として設置することで組織化し、集団指導を行い指導の統一性を図り、随時モニタリングを行い、理解力・支援力の進捗度の確認を行った。しかし、対象者を29年度の新人、異動職員に限定した結果、2～3年目の職員とで、利用者に対する理解と支援力に差が出て、統一支援に対し影響が出ている。	① 係としてのプリセプター係は継続し、対象者を、経験年数でグループ分けし、支援力の理解度を判断し、その結果に基づき、指導内容を検討し、支援力の向上につなげる。 ② 支援が難しい利用者に対しては、映像化し、具体的イメージを持てるよう指導し、支援の工夫を導いていけるよう取り組む。	人事異動職員6名(中1名は障害者支援未経験)及び新規採用職員2名に対し以下の指導を実施。 ・4/2 オリエンテーション実施(園長、医務、庶務、支援課) ・4/10 プリセプターによる研修会⇒新任職員ガイドライン使用(権利擁護、利用者の行動特性、職員及び家族との連携) ・日々職員マンツーマン指導実施。
「服薬に関するヒヤリハットが多いため今一度の見直しを望みたい」について	平成29年度の薬に対するヒヤリハットの内容を分析してみると、飲みこぼし7件、飲ませ忘れ3件、準備ミス4件、誤薬1件あった。介助者が飲んだと思っても、その後吐き出したり、口を開けた時にこぼれたりしている。加齢に伴い錠剤が飲みにくかったり感覚鈍麻で口の中のものが残っていたりすることも増えてきていることを理解しながら介助に取り組む姿勢が必要。マニュアルに沿った支援を忠実に実行する。	① 錠剤が口に残り、飲み込みにくくなってきた利用者には、粉末の薬に変更した。 ② 自立して服薬出来ていた利用者も、薬を落として気付かなくなって来たため職員により与薬介助を行うようにした。 ③ 食事介助でエプロンをかけるため、ポケットに入れたまま与薬忘れがあるため、ポケットの無いエプロンに変更した。 ④ 薬の準備ミスに関しては、看護課・支援課での複数回のチェック体制を行うことで誤薬は最小限のため継続する。 ⑤ リスクマネジメント委員会で決定した薬の飲み込み確認を徹底する。	改善計画をもとに、周知徹底を図り与薬ミスが無いようにする。方が一ヒヤリハットがあった場合は、情報を共有・分析し解決する。
「園内研修の活用によりケース記録の内容の充実を希望する」について	夜間の巡視状況や作業状況の記録については、特に作業状況のケース入力の時間確保が難しいことから、特変以外は定型文で容認していた。しかし、夜間の巡視状況についてはサービス評価で指摘を受けてからは記録内容を変更している。 5(w)1Hを基本としながらも、「その記録から、どのような場面だったかを、誰が見てもわかるように記録することが大事である。記録は利用者をつす鏡である」と抽象的な指導を行い、具体的に、記録が果たす役割、目的、意義、必要性について周知徹底できていなかった。	① 記録の重要性(目的・意義・必要性)と記録の方法について研修会を実施する。 ② パソコンへの入力時間について、体制を検討していく。 ③ 日々の記録を検証し、指導を行い、一人ひとりが記録の基本を認識できるようにする。	・夜間及び日中の状況入力は、定型文以外で、個別に実施している。しかしながら、職員のスキルアップが必要な状況あり、全職員対象及び個人指導を実施していく。 【具体的な記録に関する研修計画】 ・5/30 職員会議時、全職員対象での勉強会実施。その他、後期(1～2月)に実施予定。 ・新規採用職員及び個人指導が必要な職員に対しての勉強会実施。

※この様式は、「東京都民間社会福祉施設サービス推進費補助金交付要綱」等の規定に基づき、利用者の皆様にお知らせするためのものです。

※「項目」は、第三者評価における「さらなる改善が望まれる点」などを参照に、施設が独自に決めています。

※第三者評価(又は利用者に対する調査)の結果は、施設において公表しているほか、「とうきょう福祉ナビゲーション」によりインターネットでも閲覧できます。